

YOROZU

環境レポート 2015



目次

表紙

目次

1. 会社概要	P1
2. 当社の製品	P2
3. ヨロズ行動憲章	P3
4. メッセージ	P4
5. 環境の取り組み	
1) ヨロズグループ 環境理念	P5
2) 環境方針	P5
3) スローガン	P5
4) 環境目的	P5
5) 2015年度 ヨロズグループ環境目標	P5
6) 環境組織	P6
7) ヨロズグループISO14001認証取得状況	P7
8) 環境教育	P8
9) 環境標語	P8
10) 環境関連法規制対応状況	P9
11) グリーン調達	P10
12) 省エネルギーへの取り組み	P11
13) 廃棄物リサイクルへの取り組み	P14
14) 生物多様性の取り組み	P15
15) 社会貢献活動	P17
16) 環境データ集	P18

報告対象期間 2015年4月1日～2016年3月31日（一部、対象期間外データあり）

1.会社概要

事業概要	自動車部品、農業機械部品、生産設備の開発設計・製造
所在地	神奈川県横浜市港北区樽町3丁目7番地60号
創立時期	1948年4月1日
従業員数（連結）	7,255 名（2016年3月末現在）
ISO14001取得時期	2009年11月（グループ取得）
敷地面積	2,126 m ²
建屋面積	726 m ²



■ ヨロズグローバルネットワーク



2.当社の製品

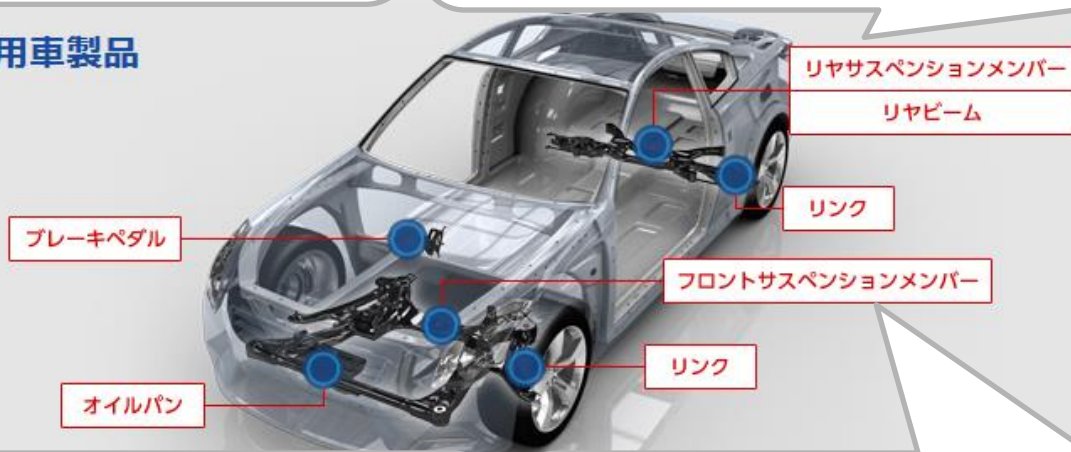
サスペンションは、クルマの高性能化を実現するためのキー・テクノロジーのひとつです。「走る」「止まる」「曲がる」という重要な運動機能を支えているばかりでなく、進化するクルマの価値そのものに大きく貢献しています。当社は、時代のニーズに柔軟に対応しながら、先進の開発技術を駆使し、サスペンションの主要な骨格部品となるメンバーやリンク類、複数の部品を統合したモジュール製品等を多彩に供給しております。今では国内はもとより、海外の自動車メーカーからも「サスペンションのヨロズ」という定評を獲得するに至っています。当社は単なる部品供給メーカーの領域を越え、開発を含めた自動車メーカーの良きパートナーとして、また低炭素社会を拓く自動車産業の一員として、新しい時代の新しいクルマ作りに貢献しています。



リンク類



乗用車製品



モジュール



3.ヨロズ行動憲章

■ 基本理念

ヨロズグループの経営姿勢は、「高い倫理観と遵法精神により、公正で透明な企業活動を推進すること」を基本としている。このためには、関連法令の遵守はもちろんのこと、良き企業市民として社会的責任を果たし、全てのステークホルダー（※1）からの信頼を得て、企業価値を高めることが必要であると認識し、ここにヨロズグループの企業行動憲章を定める。

※1) ステークホルダー：株主、社員、顧客、取引先、地域社会等

1) お客様の満足と技術革新

有用で信頼性の高い製品やサービスを、安全に十分配慮して開発、提供し、お客様の満足と信頼を獲得する。

2) 法令等の遵守

日本及び海外におけるあらゆる法令、社内規定を遵守し、社会的良識をもって行動する。

3) 環境問題への取り組み

世界環境保全への取り組みを重要課題の一つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人の豊かな暮らしに貢献する。

4) グローバル企業としての発展

国際社会における企業市民としての責任を自覚し、各国、各地域の文化及び習慣を尊重し、企業活動を通じて地域経済の繁栄に貢献してゆく。

5) 企業情報の開示

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、積極的に企業情報を正確かつ公正に、適時適切に開示する。

6) 人権の尊重

社員の人権を尊重し、差別を行わない。また人材育成を通じて企業活力の維持、向上を図るとともに社員の人格、個性を尊重する。

7) 公正な取引

公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。

8) 経営幹部の責任

経営者は、自ら率先垂範し「ヨロズ（グループ）行動憲章」の精神の実現に努める。万一本憲章に反するような事態が発生した場合には、経営者自ら問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また、社会にも迅速かつ的確な情報公開を行うとともに、権限と責任を明確にした上で、自らも含めて厳正な処分を行う。



4.メッセージ

ヨロズグループの取り組み 「愛される会社、百年企業へ」

ヨロズは1948年の自動車部品製造開始以降急速に成長発展し、当時50名であった従業員も7000人規模に、また売上も当時の4百万円から1700億円の規模に至っています。

この間環境問題も、社会問題になった公害などから最近では地球全体の問題である地球温暖化などへと変遷してきました。このように多様化してきた環境課題それぞれにきちんと対応する必要があります。

「社会貢献こそ存在意義」という企業理念に基づき、地域はもちろん世界環境保全への取り組みを重要課題の一つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かな暮らしに貢献してまいります。

そのために、生産過程だけでなく、製品の軽量化や物流面などすべての業務領域において環境保全に配慮し、企業活動を行なっています。また、全社挙げての取り組みとするため、次ページのような具体的な環境方針や取り組み項目などを定め、環境マネジメントシステムを用いて全員の活動として推進しています。

ヨロズは、自動車業界でのグローバル企業の一員として、持続可能な社会のため貢献してまいります。

代表取締役社長
志藤 健



5.環境への取り組み

1) ヨロズグループ 環境理念

『ヨロズグループは、地球環境保全への取り組みを重要課題の1つとして位置付け、積極的に行動し、世界の人々の豊かなくらしに貢献いたします。』

2) 環境方針

1. 企業活動が環境に与える影響を的確に捉えて環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの充実と継続的改善を図る。
2. 環境に関する法令、条例、協定及び要求事項を順守し、環境汚染を未然に防ぐ。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減、水の削減に企業活動の全ての領域で取り組む。
4. 環境負荷低減型の製品づくりおよび技術開発を行う。
5. 環境に負荷を与える物質の削減に取り組む。
6. 地域社会と共生し、環境保全に関する積極的な情報交流と情報提供を行う。

3) スローガン

『我々は、CSRに基づき、自然の恵みに感謝し、自然環境との調和ある成長を目指します。』

4) 環境目的（国内7社）

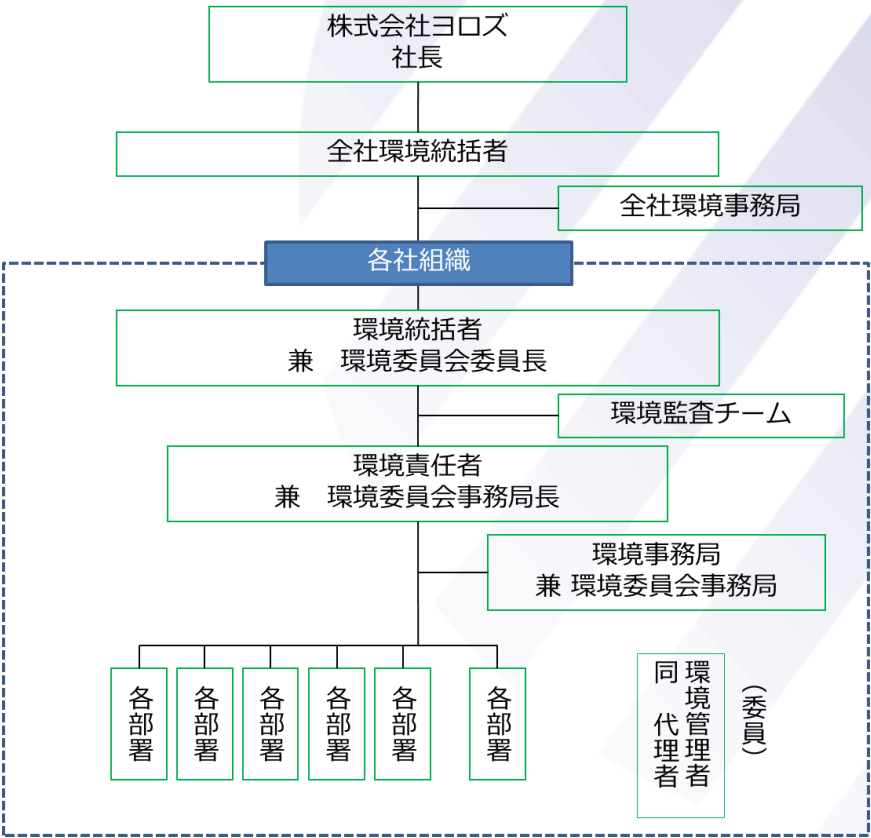
1. 環境マネジメントシステムの充実と継続改善
2. 環境汚染の予防（環境事故ゼロ）
3. 省エネルギー：CO2排出量原単位削減：▲1%/年
4. 廃棄物削減：廃棄物原単位削減：▲1%/年
5. 水削減：水原単位削減：▲1%/年
6. 省エネ、省資源に配慮した製品づくり
7. 環境負荷物質の削減
8. 地域社会との協調・共存
9. 環境保全に関する積極的な情報交流／開示

5) 2015年度 ヨロズグループ環境目標（国内7社）

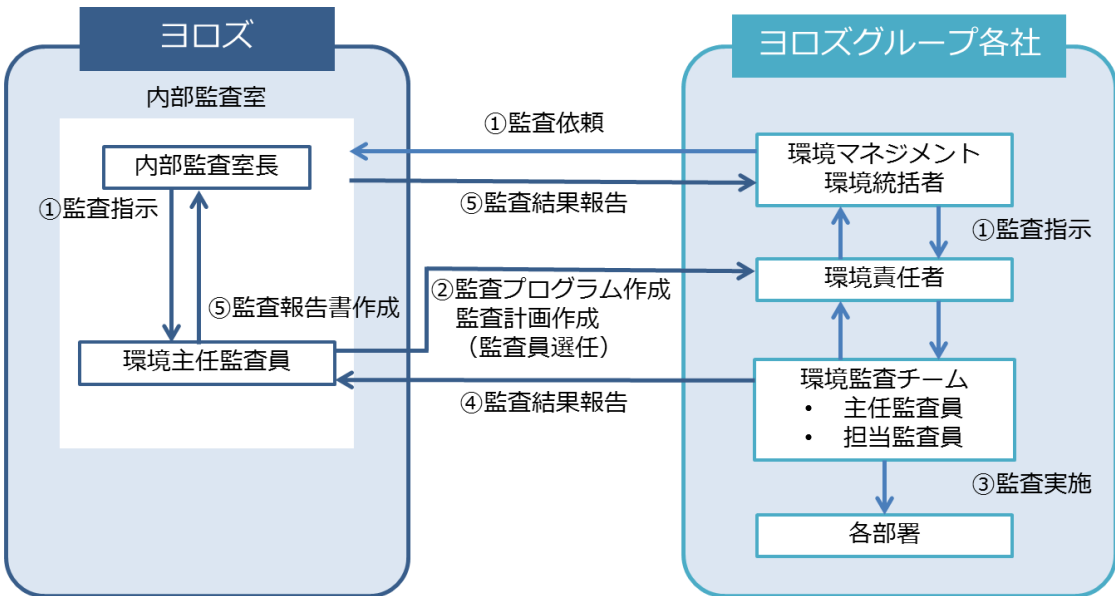
1. ISO14001認証の継続
2. 環境関係法令／各社管理値の順守
3. 省エネルギー：CO2排出量原単位の削減 ▲1%（2014年度比）
4. 廃棄物削減：廃棄物排出量原単位 ▲1%（2014年度比）
5. 水削減：水原単位削減 ▲1%（2014年度比）
6. 3R優良事業所の認定継続（横浜地区）
7. 軽量化製品の開発の推進
8. ツーリング費用の低減10%以上
9. 規制物質を含まない材料選定とIMDSによる情報管理
10. 環境保全イベントへの参加回数 計画の100%以上
11. 「企業の環境経営度」調査報告 2015年10月

6) 環境組織

■ ヨロズグループ環境組織図



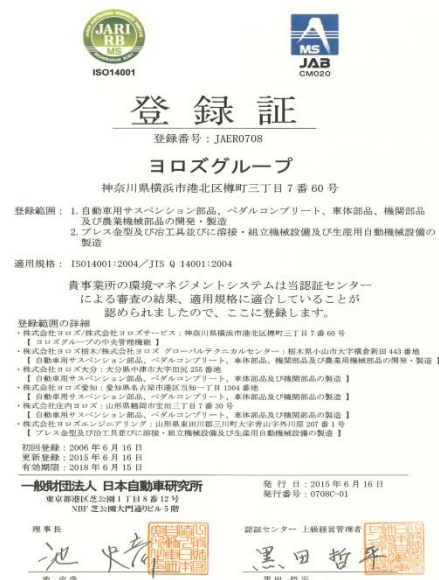
■ ヨロズ本社とグループ各社の組織および内部監査実施フロー



7) ヨロズグループ ISO14001認証取得状況

■ 国内

事業所	認証 取得日
ヨロズグループ6社統合	2009年 11月
(株)ヨロズ	
(株)ヨロズ栃木	
(株)ヨロズ大分	
(株)ヨロズ愛知	
(株)庄内ヨロズ	
(株)ヨロズエンジニアリング	



登録証

登録番号: JAE0708

ヨロズグループ

神奈川県横浜市長北区榎町三丁目7番60号

登録範囲: 1. 自動車用サスペンション部品、ペダルコンプライト、車体部品、機関部品及び農業機械部品の開発・製造
2. プレス金型及び治工具並びに溶接・組立機械設備及び生産用自動機械設備の製造

適用規格: ISO14001:2004/JIS Q 14001:2004

貴事業所の環境マネジメントシステムは当認証センターによる審査の結果、適用規格に適合していることが認められましたので、ここに登録します。

登録範囲の詳細
・株式会社ヨロズ/株式会社ヨロズサービス(神奈川県横浜市長北区榎町三丁目7番60号)
【ヨロズグループの中央管理機関】
・株式会社ヨロズ栃木/株式会社ヨロズ グローバルテクニカルセンター(栃木県小山市大字環倉新田440番地)
【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプライト、車体部品、機関部品及び農業機械部品の開発・製造】
・株式会社ヨロズ大分(大分県中津市大字田尻255番地)
【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプライト、車体部品及び機関部品の製造】
・株式会社ヨロズ愛知(愛知県名古屋市中区当知一丁目1304番地)
【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプライト、車体部品及び機関部品の製造】
・株式会社庄内ヨロズ(山形県鶴岡市五反田三丁目7番30号)
【自動車用サスペンション部品、ペダルコンプライト、車体部品及び機関部品の製造】
・株式会社ヨロズエンジニアリング(山形県鶴岡市五反田三丁目7番30号)
【プレス金型及び治工具並びに溶接・組立機械設備及び生産用自動機械設備の製造】

初回登録: 2009年6月16日
更新登録: 2015年6月16日
有効期限: 2018年6月15日

一般財団法人 日本自動車研究所
東京都港区芝公園1丁目8番12号
NRI 芝公園大門ビル5階

発行日: 2015年6月16日
発行番号: 0708C-01

理事長 池 史郎
副理事長 黒田 哲平

■ 海外

事業所	認証取得日
ヨロズオートモーティブテネシー社(YAT)	2001年10月
ヨロズ メヒカーナ社(YMEX)	2002年08月
ヨロズ タイランド社(YTC)	2002年07月
ヨロズ オートモーティブ ノースアメリカ社(YANA)	2003年07月
广州萬宝井汽車部件有限公司(G-YBM)	2007年10月
ヨロズ JBM オートモーティブ タミル ナドゥ社(YJAT)	2013年12月
武漢萬宝井汽車部件有限公司(W-YBM)	2014年06月
ヨロズオートモーティブグアナファト デ メヒコ社(YAGM)	2015年09月
ヨロズオートモーティブインドネシア社(YAI)	2016年10月

記載のない新規海外拠点は、現在認証取得に向け計画・準備中

8) 環境教育

環境への意識を高めることを目的に環境教育を行っています。

環境教育内容

一般教育

- ・環境管理者教育
- ・環境影響評価者教育
- ・内部環境監査委員教育

環境変化点に関する教育

- ・化学物質管理
- ・省エネルギーの取り組み
- ・生物多様性に関する教育等
- ・改正フロン法
- ・E-ラーニング



9) 環境標語

環境への意識を高めるために、国内グループでは6月の環境月間にあわせて環境に関する標語を募集し、その中で優秀な標語に対して表彰を行っています。

優秀作品

1	ゼロベース 知恵を絞って エコ設備（ヨロズエンジニアリング 組立技術課）
2	知恵を出し ゴミを出さない ものづくり（ヨロズ愛知 製造課）
3	「もったいない」 日本の文化 守りたい（ヨロズ 営業部）

■ 環境月間の取り組み

横浜本社では、横浜市が作成した環境に関するパネルを環境月間期間に食堂へ掲示しています。

水、化学物質、地球温暖化、生物多様性、緑の保全に関する情報とミニクイズが記載されています。

パネルを展示するようになり、社員の環境意識が向上しています。



10) 環境関連法規制対応状況



環境法規制の取り組み

2015年度における環境関連の事故等 ヨロズグループでの発生は、ありませんでした。



廃棄物処理量削減への取り組み

当社では3Rを積極的に取り組んできた結果、埋立て処分量はゼロを継続しております。また、廃棄物再資源化率100%を継続しております。

ヨロズグループでは廃棄物発生量削減活動を進めており、原単位削減自主目標1%削減に対し、目標通りの1%の削減を行うことができました。次年度も継続して取り組みを実施いたします。



大気汚染防止への取組み

生産工程から排出される硫黄酸化物(SOx)は、灯油及びLPG等への利用を図り排気ガスの清浄化に取り組んでいます。



水質汚濁防止への取組み

工場で使用する水についても、貴重な資源と捉え、工程内での再利用を図り使用量の削減を図るとともに、廃水についても水処理設備において処理を行い、河川等に放流を行っています。



化学物質の管理

従来より工程で使用される油脂、薬品、塗料といった資材について、採用前にSDSを入手して環境面での評価を行い、採用の可否若しくはより環境への影響度の低い物質への切替を行ってまいりました。また、PRTR法、REACH規制法を継続して順守していきます。

1 1) グリーン調達

当社ではグリーン購入法に基づいたグリーン調達を実施しています。
以下、『ヨロズ・グリーン調達ガイドライン』より抜粋

【お取引先様へのお願い事項】

お取引先様には、環境について以下の取り組みをお願い致します。

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用
2. 環境負荷物質の管理
3. 資源循環の取り組み

1 環境マネジメントシステムの構築と運用

- (a) すべてのお取引先様において、環境保全活動を推進し、継続的な改善活動を行うための環境マネジメントシステムの構築と運用をお願いします。
- ・ ISO14001などの外部認証の取得・継続更新
 - ・ またはそれに準じた環境活動の実施
- (b) お取引先様の事業活動における、環境関連法規等の遵守をお願いします。
- ・ 各国の環境関連法令・規則
 - ・ 対象得意先自動車メーカーの標準・規格類
- (c) すべてのお取引先様において、環境責任者および推進担当者の選任をお願いします。責任者、担当者の方を通じて、弊社との環境活動を推進してまいります。

2 環境負荷物質の管理

すべてのお取引先様において環境パフォーマンス向上の取り組みをお願いします。

<環境取り組み項目>

- ・ GHG (CO₂)、廃棄物、水の使用量の把握
- ・ 把握できている場合は、それらの削減活動（目標立案、削減計画立案、活動、確認）の実施。

※削減目標を立てる場合は、「対前年比 1%以上削減」を目安として下さい。

3 資源循環の取り組み

限りある資源を有効活用するため、お取引先様においてはリサイクル材の利用を推奨します。

- ・ 部品の端材の活用をご検討ください。
- ・ スクラップから再生した材料を部品に使用することをご検討ください。
- ・ 梱包資材の再利用をご検討ください。

1 2) 省エネルギーへの取り組み

低炭素社会に向け、地球温暖化ガス削減の取り組みを行っており、毎年1%の原単位削減を目標に活動を進めています。

エネルギーも貴重な資源（＝コスト）と捉え、「最大の効率と徹底したミニマムコスト」のスローガンの下、製造現場をはじめとした、製品開発・生産設備設計・物流・オフィスといった企業活動すべての領域において省エネルギー活動を実施しています。また2015年度に採択されたパリ協定についても、業界団体の動向に合わせ取り組んでいきます。

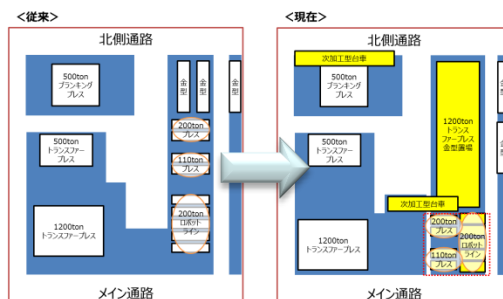


■ 製造現場での省エネ活動（ヨロズ大分事例紹介）

プレスエリアでのレイアウト変更による、エネルギー使用量削減活動を実施しました。この活動は環境負荷物質であるCO2排出の削減に寄与しますが、日々の業務改善から生まれた省エネ事例になります。

従来、1200tonトランスファープレスに使用している金型は屋外にて管理されており使用の都度、大型のフォークリフトにて運搬していました。そこでレイアウトを見直し、使用頻度の高い金型を屋内へ置けるようにし、フォークリフトではなく工場内にあるクレーンを使用してプレス機まで運べるようになりました。このことで、軽油使用量が下がり、また工数削減も可能となりました。

削減効果：年間31 ton-CO2削減



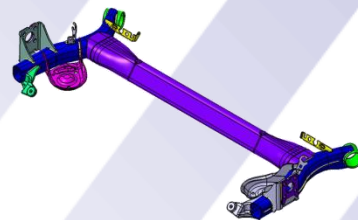
■ 省エネ製品の開発

①高剛性パイプビームの量産

EVやFCVといった次世代自動車の車両性能向上に貢献する、新構造・新工法のリヤビームを開発し、2015年末より量産を開始しました。

パイプビーム工法の特徴は、鋼管をプレス成型し熱処理により強化、引張り強さで約3倍の強度にUPし、軽量・高剛性化されたことです。従来型では、パイプビームではなく鋼板+ロールバーの構造でした。ビーム部分をつぶし、断面を閉鎖することでロールバーを追加することなくロール剛性や強度を高めることができました（右図）。ロールバーがなくなった結果、軽量化され車両としての燃費向上が見込まれます。

現在はこの製造工程に対し、更に省エネルギーで生産できる工法を開発中です。



従来構造



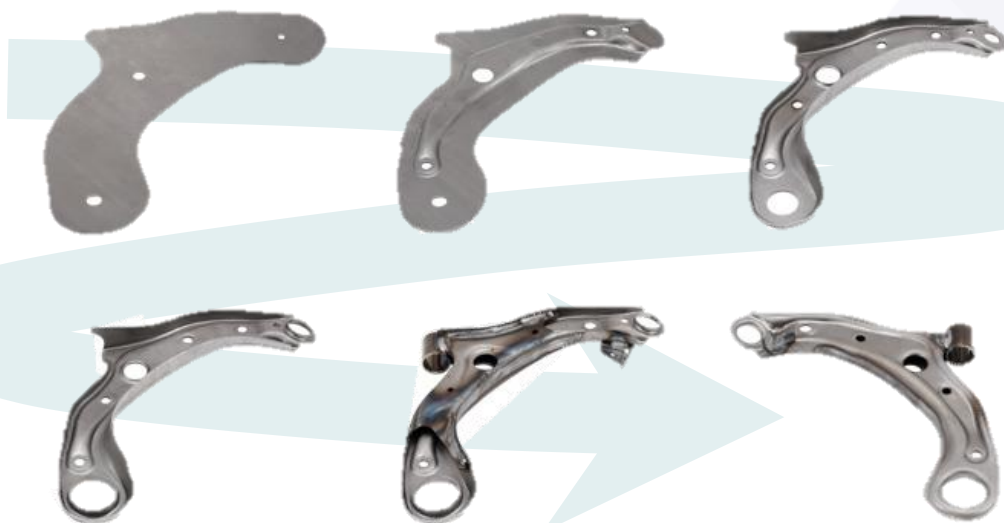
PIPE BEAM



パイプビーム工法



②ハイテン材適用



自動車部品を設計する際、高強度のハイテン材を使用する事で薄板化しても普通鋼板と同じ強度を確保できるため軽量化を図れます。ハイテン材はプレス成形性が下がってしまう課題がありますが、設計・成形技術の向上により、フレームやアームなどの主要構造部材への適用を拡大しております。

■ 再生可能エネルギーの導入

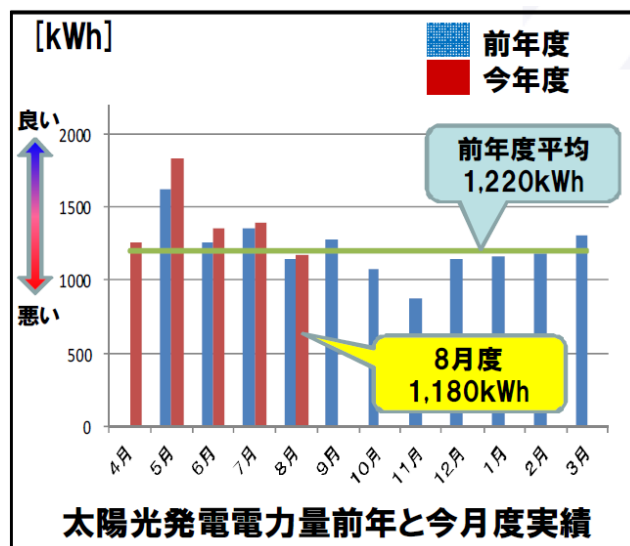
開発拠点であるヨロズグローバルテクニカルセンターでは、再生可能エネルギー設備（太陽光発電）を使用しています。発電状況は1フロアにて来客された方でも確認することができ、発電した電気は当ビル内にて使用しています。

また、2016年より本社を含めたグループ会社において一部を再生可能エネルギーにて発電された低CO2排出エネルギーを導入しました。

■ ヨロズグローバルテクニカルセンター（YGTC）の発電状況モニターおよび太陽光パネル



■ 毎月の実績集計グラフ



1 3) 廃棄物リサイクルへの取り組み

当社では廃棄物の削減の取り組みとして、毎年1%の原単位削減を目標に削減活動を進めています。また2006年以降、発生した産業廃棄物のリサイクル率100%（ゼロ・エミッション）を継続し、循環型社会の形成に貢献しています。



分別の徹底

品名	分別方法	処理方法	備考
紙類	紙類	資源回収	
プラスチック類	プラスチック類	資源回収	
金属類	金属類	資源回収	
ガラス類	ガラス類	資源回収	
その他	その他	資源回収	

搬出時の立会い



取引先確認



横浜市 3R優良事業所認定

ヨロズ（本社）では、5年連続で3R優良事業所として横浜市より認定を受け表彰されております。（過去の分別優良事業所から9年連続の表彰）

▶ 制度の概要

横浜市内の事業所から排出される一般廃棄物の減量化や資源化を促進するために顕著な功績のあった事業所を「3R活動優良事業所」として認定し、その取り組みを広く紹介することにより、事業者にも事業系廃棄物の分別排出や3R活動を積極的に取り組んでいただくことを目的としています。

認定基準は以下項目になります。

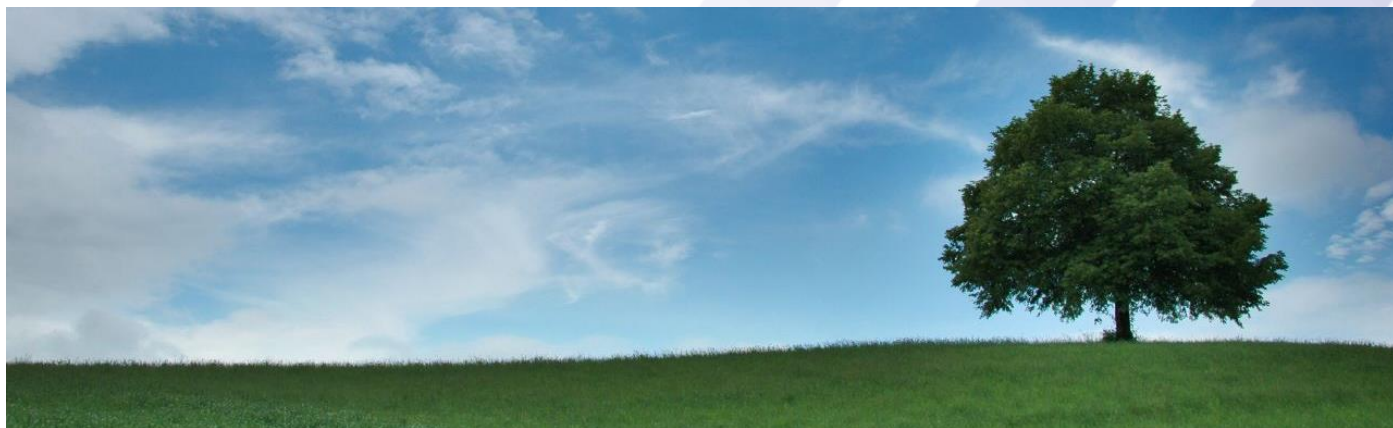
分別排出の徹底／従業員への環境教育の実施／再資源化の推進／紙ごみの減量化の推進／資源回収の推進／発生抑制の推進／社会貢献活動等 他



1 4) 生物多様性の取り組み

生物多様性保全の基本方針

**「ヨロズの事業活動で影響を及ぼす可能性のある
生物多様性に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。」**



行動指針

1. 生物多様性保全活動の社内教育活動

生物多様性基本法及び取組内容を共有する教育を行います。

2. 地域社会と連携した生物多様性保全活動への参加

地域と共同等の生物多様性に関する活動に積極的に参加します。
(生き物調査、地域のクリーン活動等)

3. 事業所を中心とした生物多様性保全への取り組み

事業所内の美化や緑地の維持管理を行い、生態系の保護を目指した取り組みを行います。

4. 生物多様性を育む社会づくりへの貢献

各種団体、外部組織との連携した自然保護活動等の取り組みへの積極的な参加を致します。

ヨロズでは、地域とのコミュニケーションを考え、地域活動に積極的に参加しています。
(清掃活動や生き物調査への参加)

■ 栃木県 「小山工業団地の生き物調査」への参加



ヨロズ栃木のある小山第一工業団地では、毎年7・9月の年2回近隣の横倉自治会主催の「生き物調査」に参加しています。

この地域では、団地企業が自社内で排水処理を行い農業用水路へ排水をしているため、処理状況が悪いと生態系が崩れ生き物が少なくなってしまう。

2015年はドジョウ・ザリガニをはじめ、魚やトンボ、チョウだけでなく水質悪化の影響を受けやすいカワニナや、マルタニシも見つかりました。

この活動は企業とNPO団体、自治会が協同するコミュニケーションの場でもあります。

■ 神奈川県 「森林づくり」への参加



神奈川県 (財)かながわトラストみどり財団の「森林づくり」に参加し、植栽を行いました。毎年秋に箱根町での植林があります。

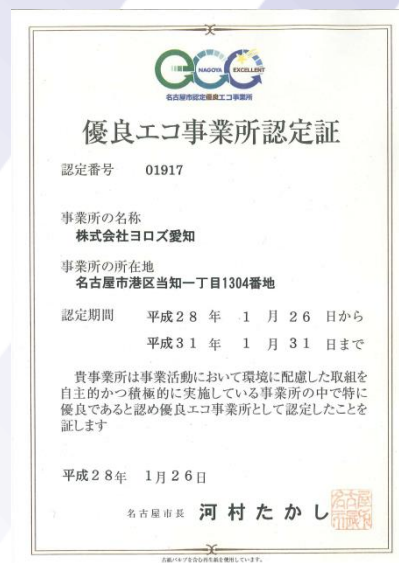


1 5) 社会貢献活動

名古屋市 優良エコ事業所認定

➤ 優良エコ事業所認定制度とは？

事業活動における環境に配慮した取組を自主的かつ積極的に実施している事業所を、名古屋市が“優良エコ事業所”として認定し、自主的な取組を支援するものです。ヨロズ愛知では環境活動・地域貢献活動を積極的に行い2015年度に名古屋市より“優良エコ事業所”に認定されました。



海外拠点での活動

近隣の工業団地での植樹活動（インド）

インドにあるYJAT（ヨロズJBMオートモーティブタミルナドゥ社）では毎月のイベントとして、従業員総出で工場周りの清掃活動を行っています。また所属する工業団地（タミル・ナドゥ州）にて、開発された土地へ新たに植樹を行い、緑地を増やしていく活動も行っています。地域との共生は、環境保全活動として重要なコミュニケーションです。



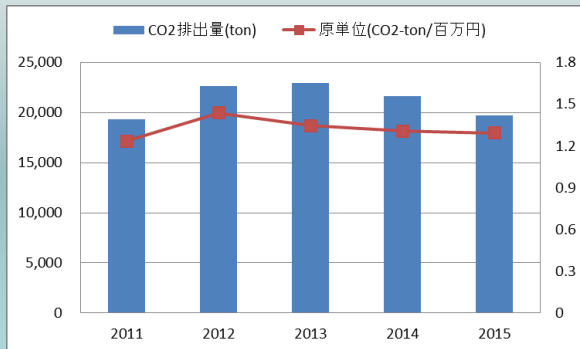
工場の排水を処理し、敷地内の緑地へ活用（メキシコ）

メキシコ第一拠点のYMEX（ヨロズメヒカーナ社）では、工場内から出た排水を事業所内で水処理を行い、敷地内の緑地への水やりに活用しています。工場に使われている水は地下水を使用していますが、水も貴重な資源であるためこのようにリサイクルし有効活用しています。

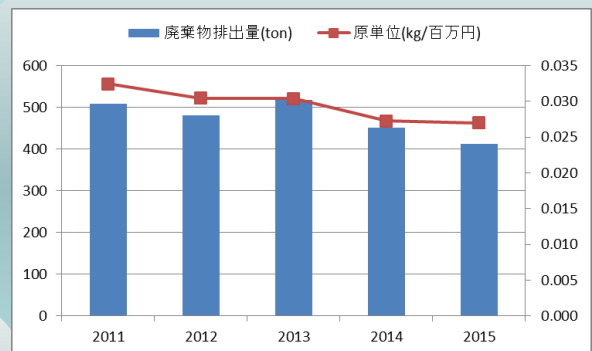


1 6) 環境データ集 (国内)

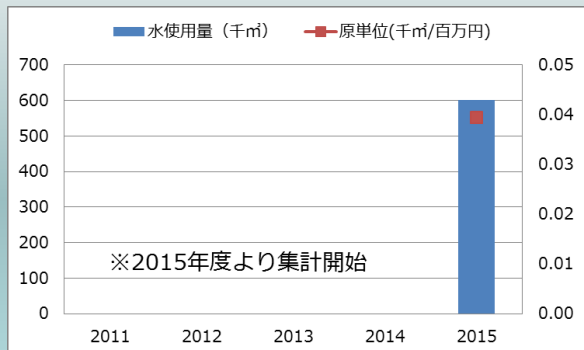
CO₂



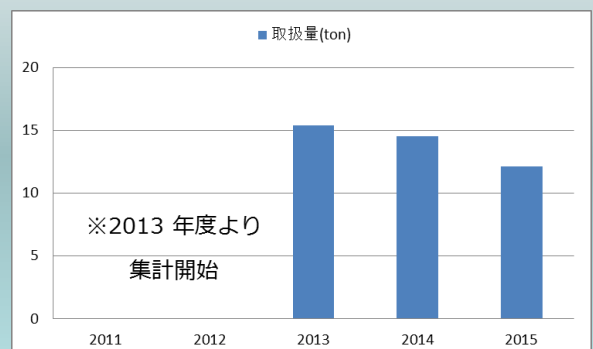
廃棄物



水



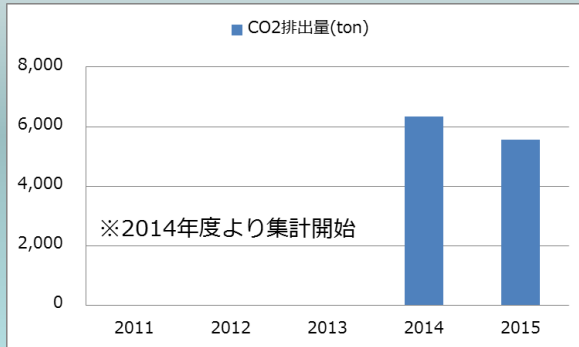
化学物質 (PRTR対象物質)



1 6) 環境データ集 (国内)

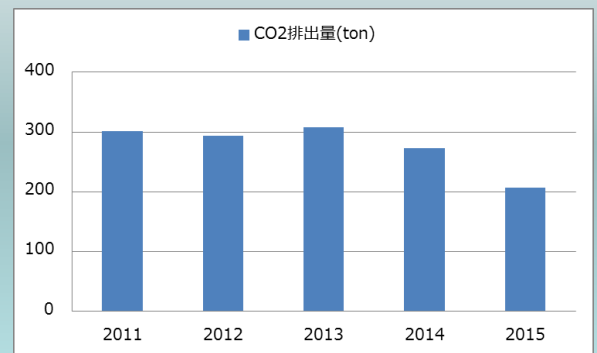
資本財 (Scope3)

自社の資本財となる設備等の製造・建設に伴うCO2排出量



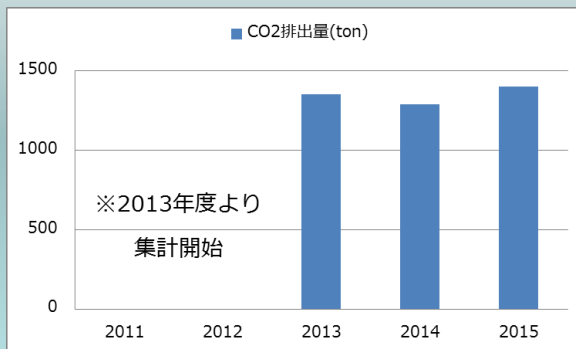
廃棄物処理 (Scope3)

廃棄物処理にて排出されるCO2排出量



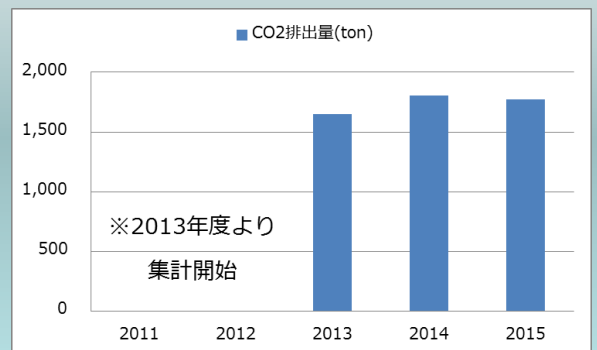
通勤車 (Scope3)

従業員の通勤車両から排出されるCO2排出量



物流 (Scope3)

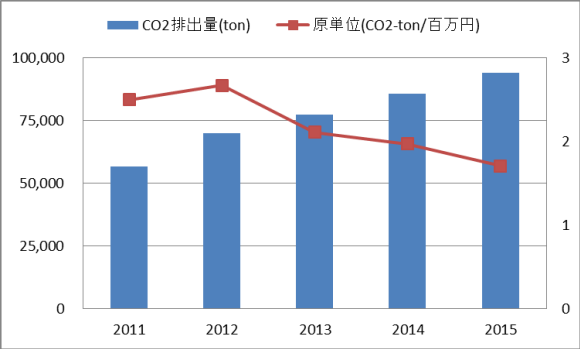
自社便から排出されるCO2排出量



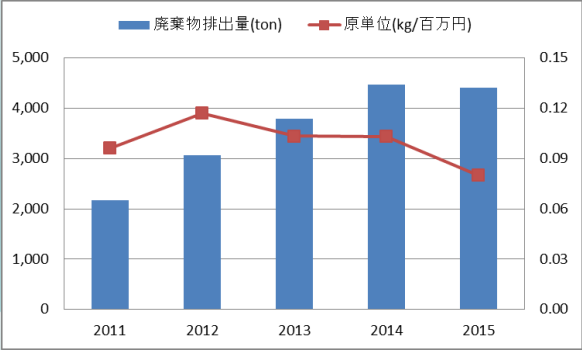
※Scope3は、環境省「サプライチェーン排出量算定の考え方」を基に算出しております。

1 6) 環境データ集 (海外)

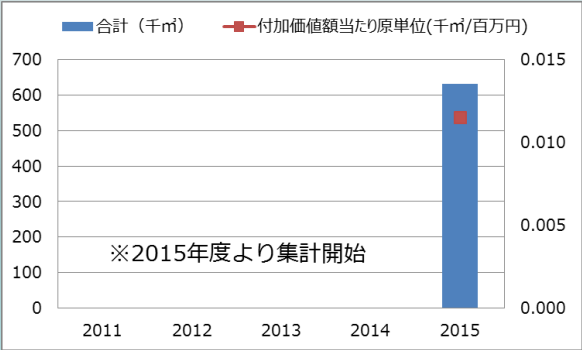
CO₂



廃棄物



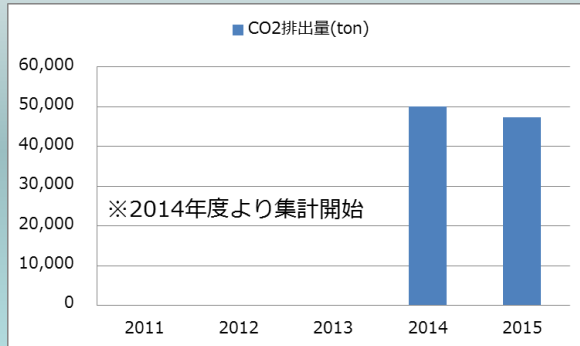
水



1 6) 環境データ集 (海外)

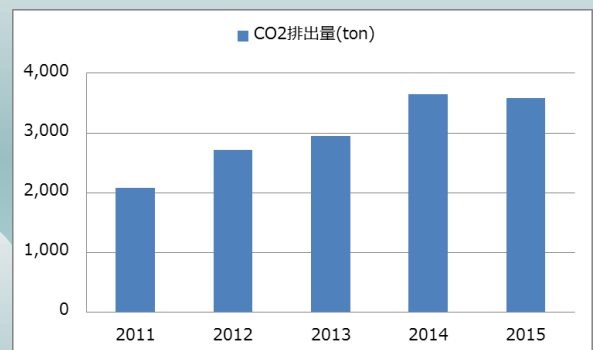
資本財 (Scope3)

自社の資本財となる設備等の製造・建設に伴うCO2排出量



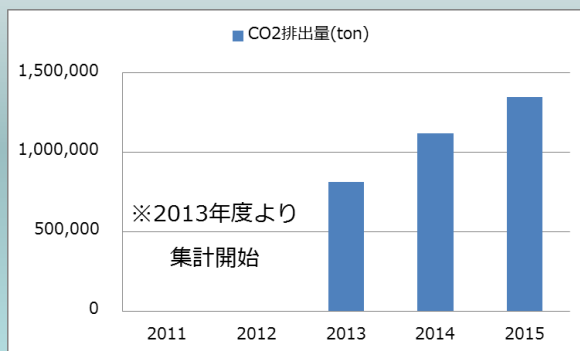
廃棄物処理 (Scope3)

廃棄物処理にて排出されるCO2排出量



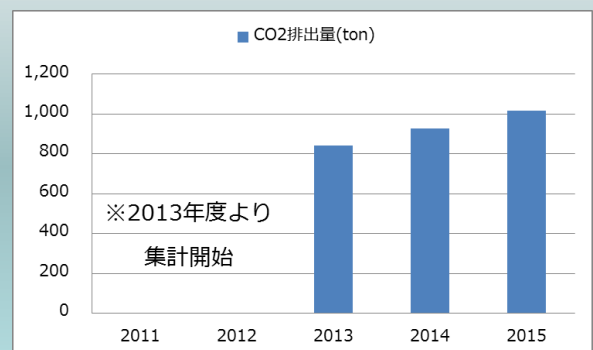
通勤車 (Scope3)

従業員の通勤車両から排出されるCO2排出量



物流 (Scope3)

自社便から排出されるCO2排出量



※Scope3は、環境省「サプライチェーン排出量算定の考え方」を基に算出しております。

YORÖZU

